

令和6年度 大田区立田園調布中学校 自己評価 報告書

○ 本校の概要

令和7年3月7日

○本校は、本年度76目を迎える歴史と伝統のある中学校です。本校に勤務することを誇りに思うとともに、先輩から脈々と受け継いできたよき伝統を守っていききたいと思います。また、本校で学べてよかったと実感できる学校づくりをして参る所存です。
○本年度は4月1日の時点で新入生が45名(2学級)、2年生50名(2学級)、3年生47名(2学級)、計142名の6学級の規模となりました。現在、日本の社会状況や経済状況は日々変化し、また、価値観の多様化もさらに進んでいます。このような時期だからこそ、教育が果たす役割の重要性や期待が高まっていることを自覚しなければなりません。これからの日本を担っていく子供たち一人一人が、夢や目標をしっかりともち、自己実現を図ることができるよう学校づくりをしていきます。子供たちが確かな学力を身に付け、毎日元気で楽しい学校生活を送ることができるよう、誠実にそして心を込めて教育にあたって参ります。
○本年度は「タブレット等ICT機器を活用した分かりやすい授業」、「思いやりや主体性を育む体験活動や学校行事」、「考え・議論する道徳」について一層の推進・充実を図ることを重点課題とし、子供たちにとって田園調布中学校が一層「魅力ある学び舎、誇れる学校」となることを目指しています。

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	方向性	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組 今後の改善策 アンケート回答者数 生徒:111人 保護者81人	学校関係者記入欄		
								評価	人数	コメント
生予個 き測別 困力難 標をな1 育未成 来し社 会を創 造的に	社会の様々な課題を自分事として捉え、主体的に考え、他者と協働し、問題解決していく意欲や、予測困難な未来社会を切り拓いていくために重要な創造力や課題解決力、情報活用能力を育成します。	①STEAM教育等の教科等横断的な学びや科学教育を推進し、課題解決力や新たな価値を創造する力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3	①「STEAM教育等の教科等横断的な学びや科学教育を推進し、課題解決力や新たな価値を創造する力の育成に取り組んでいた。」肯定的意見 75.5% ②「学校内外での様々な体験活動や自己評価する習慣づくりを推進し、自ら考え判断する力や、他者と協働していく力の育成に取り組んでいた。」肯定的意見 98.7%	4:90%以上 3:80%以上	理科、数学などの授業を中心に、美術、技術家庭科などから、ある課題を解決していく力がついてきている。今年度、力を入れた授業のICT化の効果ができている。保護者のアンケート①と生徒のアンケートの割合も近い。	A	5	自己肯定感はあるもののことに前向きに、積極的に取り組んでいく上で大切なこと言われており、生徒自身がそう思うことが重要だと思います。自己肯定感をより高めるために、改善策でも掲げられている学校生活の中で、小さなことでも良いので誉めて育てていくください。 改善策が更に成果として表れるよう願っています。 クラブ活動、特に運動クラブの役割が求めていると思います。 適切な分析のもと改善策を立案されていると思います。自己肯定感、自己有用感の醸成は通常の授業ではなかなか育んでいくのが難しい部分かと思慮します。行事等を活用され、自主性を尊重し自己肯定感、自己有用感を高められている方法は素晴らしいと思います。 先生と生徒のコミュニケーションを大切にしていきたいと思います。
		②学校内外での様々な体験活動や自己評価する習慣づくりを推進し、自ら考え判断する力や、他者と協働していく力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3	③「情報技術を適切に活用した授業の実施を通して、情報活用能力の育成に取り組んでいた。」肯定的意見 79.4%	3:80%以上	一方で体験活動、運動会や学習成果発表会などの学校行事において、自己肯定感、自己有用感が高まっているかとの質問には保護者と生徒で乖離が見られた。体験活動では13.1%生徒が低く、運動会などの学校行事では、26.7%生徒が低くなっている。	B	5	ICT教育の先進国である北欧諸国では既にその弊害を問われる段階(創造力、自己開発力の低下等)にあるとも言われる中、学習成果発表会、運動会などを通して感じられた生徒達の行動力や発想力は驚きであり、それを実現させた学校関係者の方々の努力は高く評価させて頂きたいと思います。 方、アンケートにおける生徒達の自己評価の予想外の低さ、また、保護者の方々の評価との乖離は、本人達の意識と、外側から見た印象の違いと同時に生徒達個人の格差によるものが大きいのではないかと言う気がします。今後の課題としては、このギャップを如何に「して埋めていくか、それにはICT教育には馴染まない音楽・芸術系の強化がその鍵になる様な気がします。
		③情報技術を適切に活用した授業の実施を通して、情報活用能力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4	④「運動会や学習成果発表会等の学校行事、修学旅行や移動教室等の宿泊行事、社会見学等の校外学習を通して自己肯定感・自己有用感を高める。」肯定的意見 98.7%	2:70%以上	＜改善策＞ 自ら考え判断する、他者と協働していくことで、自己肯定感、自己有用感を高めることが求めている。行事だけに限らず、普段の教科の授業や学活などで、対話的、協働的な活動を取り入れて、創造力、課題解決力、情報活用能力を育成する。	C	0	
		④運動会や学習成果発表会等の学校行事、修学旅行や移動教室等の宿泊行事、社会科見学等の校外学習を通して自己肯定感・自己有用感を高める。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4	平均 88.1%	1:70%未満		D	0	
お世お 界別 たを 目 を標 担な2 うが 人 材 を際 育 都 成 市 し ま す	英語での実践的なコミュニケーション能力を高めるとともに、我が国や郷土の伝統文化に触れ、尊重する心や、協力していく態度を育成します。また、国際社会・地域社会に関心をもち、持続可能な社会を形成していく態度を形成します。	①外国語教育指導員の活用などにより、英語に慣れ親しみながら会話をする機会を増やし、英語力やコミュニケーション能力の向上、豊かな国際感覚の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3	②「我が国や郷土の伝統や文化の学習、人権教育を推進し、自分とは異なる文化や価値観をもつ相手を理解し、互いに尊重し合う心の育成を図っている。」肯定的意見 84.6%	4:90%以上 3:80%以上	外国語教育指導員の活用で授業等で会話をする機会を増やしている。また、コミュニケーションの根幹となる、文化や価値観、また課題を解決する力については英語以外の授業においても養われている。	A	6	さいたま市の英語教育(小中一貫英語教育、グローバル・スタディ)が成果を上げていると聞きました。子どもたちか外国の方に物おせずに話しかけている様子を見て、恥ずかしがらずに話すことが第一歩だと感じています。外国語教育指導員をはじめ、金曜英語教室、英語対策WEEKなどははめられており、成果が出ることを期待しています。海外勤務や外資系勤務など、保護者には外国語、特に英語に精通している方も多いと思いますので、保護者に協力を呼びかけ、一日、英語漬けのような日を設けてもよいのではないのでしょうか。 英語は日常使わないと身につきません。 英語力の向上が国際感覚の柱のひとつにもなると思いますので、先生方の負担は増えてしまうかもしれませんが、英検3級取得に向けての取り組みの継続は「国際都市おおた」を担う人材の育成につながると思います。 現状、課題から、改善策を検討している点、今後の継続に期待しております。
		②我が国や郷土の伝統や文化の学習、人権教育を推進し、自分とは異なる文化や価値観をもつ相手を理解し、互いに尊重し合う心の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4	③「現代社会における地球規模の課題を自分事として捉え、その解決に向けて考え、行動する力の育成に取り組んでいた。」肯定的意見 74.2%	2:70%以上	生徒アンケートは保護者アンケートに比べ10%前後低い。自信をもって国際感覚が身に付いたを実感できるよう各授業で工夫していくことが必要である。 ④は1、2年生の生徒の割合が低くなっているのはまだ3級を受ける段階ではないことも影響している。	B	4	＜改善策＞ 外国語教育指導員の授業を始め、学習への関心が高いので、英語だけでなく、各教科で、異なる文化や価値観について探究していける力がつくよう授業の工夫をする。 英検3級取得については、自習的にEnglish4skillsの活用を促すと共に、毎週行う「金曜英検教室」、面談期間に行う「英検対策WEEK」を始めている。来年度も継続していく。
		③現代社会における地球規模の課題を自分事として捉え、その解決に向けて考え、行動する力の図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4	④「英語科授業や補習教室、自習教材として英検対策用アプリEnglish4skillsの活用、学校内での年3回の英検実施を通して、中学校3年生の英語検定3級以上の取得者を上昇させていた。」肯定的意見 67.7%	1:70%未満		C	0	他国の文化・言語に興味をもたせられる「きっかけ」を多くつくるしかないかと思ひます。いい意味で「ART」とか「遊び」がキーになると思います。インクルーティブ教育はここに入ると考えます。国籍/思考/文化/言語/伝統などの違いを認め合い、議論し合う文化醸成が日本にも必要なのではないでしょうか。 世界とつながるコミュニケーションにおいて、必須とも言える英語で最も大切な事は、如何に語るべき内容を持ち得るかだと思います。好きな事、誇るべきものがあれば、何とかしてそれを相手に伝えたいという思いが自然と湧いてきます。私が拝見した教材の授業では海外の有名ミュージシャンのYouTube画像が教材として取りあげられており、自分達の時代とは隔世の感がありましたが、一方的に教え込むのではなく、自ら話したくなる状況があり、その中でたどる拙い表現であっても、それが相手に通じた時の喜びは格別なものです。恥ずかしがながら齢70にして、国際的なコミュニケーションの大切さに目覚めた私の実感です。
		④英語科授業や補習教室、自習教材として英検対策用アプリEnglish4skillsの活用、学校内での年3回の英検実施を通して、中学校3年生の英語検定3級以上の取得者を上昇させる。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3	平均 74.8%			D	0	
た一個 め人別 の目 基と標 礎り3 とが個 る性力 とを能 育力成 をし発 揮する	児童・生徒が豊かな人生を生きていく上で基礎となる力として、豊かな心や確かな学力、健やかな体を育成します。また、乳幼児期から中学校までの一貫性のある教育を推進します。	①道徳科を中心とした各教科等での学習などを通じて継続的に道徳教育を実施し、豊かな情操や道徳心の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4	②「学習習熟度に応じた指導や個に応じた学習支援、各種検定の実施を通して、すべての子どもに確かな学力の育成に取り組んでいた。」肯定的意見 84.7%	4:90%以上 3:80%以上	②については、数学と英語の少人数学習の効果もあり、生徒アンケートでも保護者アンケートとほぼ同じ割合となった。 小中連携の日を設け、授業見学を行い、小中一貫の教育に取り組んでいる。 今年度よりテスト週間ではタブレットを活用した学習計画表を作成し、自らの学習にいかしている。生徒アンケートでは学習計画表については計画を達成したかを確認したところ、約6割が達成したと答えている。	A	7	個性を伸ばす力を育成をお願いします。 生徒の多くは田園調布小学校の卒業生だと思います。母校に出身向、小学生と触れ合う機会を意図的につくることで、小学生のお兄さん、お姉さん役となることで、生徒の自己肯定感を高めることになり、小学生のリクルートにもつながると思います。 小中一貫教育に関してはコロナ以降田中フェスタもなくなり、交流が減ったこともあり、難しいと感じます。 田園調布小学校の建て替え工事に伴い、小学校生徒が中学校の校庭等を活用をしに来校する際は中学校をアビールするチャンスになるかと思ひます。小中一貫教育のイメージが定着するよう応援しています。 一人ひとりに合わせた学習計画に期待したいです。 道徳観に結論はないですが、「気づきの共有」をぜひ続けてほしいです。まだまだ改善できることが多い印象を持っているので、取り組みに協力していきたいです。豊かな人生の定義は何か？と気になりました。 取り組みとして、乳幼児期から中学校まで円滑な接続〜とありますが具体的にどのような取り組みをされているのか、正直見えてこないというのが実感です。また、情操教育という観点から、高齢者の方とのふれあいも大切かと思いますが、毎年敬老の日を実施されている地域の公営者の方へ送る手紙という取り組みはユニークで、受け取った高齢者の方にとって大きな喜びとなっている様です。今後は更に地域のイベント等を通して、直接触れ合う機会を増やされたら如何でしょうか。 昨年度、二丁目自治会が中心となって開催しました「Den Den フェスタ」という催しでは、田園調布中学校生徒会のみならずの積極的な協力で、大きな成功を収めました。中でも、その事前講習会で、同じく参加した小学生達を優しく教える姿は実に頼もしく、また本番の盆踊りでは、客席の最前列で孫娘の晴れ姿を見つめる祖父の方の後姿も強く印象に残っています。そして、イベントを終了後、突然降り出した大雨で帰りを促されたにもかかわらず、それを気にする事も無く、浴衣姿にままま残置しそうに話らう姿はまるで一服の絵画のようでもありました。中学校としては、既にグリーンフェスタや防災訓練など地域の行事に積極的に協力いただいていると思いますが、今後はそれぞれの行事のスケジュールや目的を整理し、調整していく必要があると思います。
		②学習習熟度に応じた指導や個に応じた学習支援、各種検定の実施を通して、すべての子どもに確かな学力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4	③「体育や保健体育の授業など様々な機会を通して、健康教育や食育を推進し、基本的な生活習慣の確立に取り組んでいた。」肯定的意見 89.2%	2:70%以上	タブレットを活用した学習計画表は来年度も継続して取り組む。一人ひとりに合わせた学習計画を立てられるようにする。	B	3	
		③体育や保健体育の授業など様々な機会を通して、健康教育や食育を推進し、基本的な生活習慣の確立を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4	④「乳幼児期から中学校まで円滑な接続を行うため、保幼小の連携や小中一貫の視点に立った教育に取り組んでいた。」肯定的意見 80.4%	1:70%未満		C	0	
		④乳幼児期から中学校まで円滑な接続を行うため、保幼小の連携や小中一貫の視点に立った教育を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3	⑤「確かな学力と学習習慣の定着を目指し、定期試験2週間前の1日平均学習時間を「学年＋1時間」、1年2時間、2年3時間、2年3時間以上を目標として取り組まされていた。」肯定的意見 75.0%	平均 83.9%		D	0	
た一個 め人別 の目 基と標 礎り3 とが個 る性力 とを能 育力成 をし発 揮する	児童・生徒が豊かな人生を生きていく上で基礎となる力として、豊かな心や確かな学力、健やかな体を育成します。また、乳幼児期から中学校までの一貫性のある教育を推進します。	⑤確かな学力と学習習慣の定着を目指し、定期試験2週間前の1日平均学習時間を「学年＋1時間」、1年2時間、2年3時間、3年4時間以上を目標として取り組ませる。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3						

学 校 別 力 ・ 標 教 4 師 力 を 向 上 さ せ ま す	校内研究等のOJTの充実を通して、教師の授業力を向上させます。また、質の高い教育を実現するため、学校の組織的な運営力を向上します。あわせて、教師がやりがいをもって働くことができる魅力的な環境づくりを進めます。	①児童・生徒一人ひとりの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実の視点による授業改善を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4	保護者アンケート ①「児童・生徒一人ひとりの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実の視点による授業改善に取り組んでいた。」肯定的意見 89.2%	4: 90%以上	4	①の生徒一人ひとりの可能性を引き出す授業は、生徒アンケートが10%ほど低い。 2年生職場体験では地域の方の協力のもと取り組んでいるが、②の地域の特色を生かしているかについては、生徒アンケートで半数程度に肯定的意見が留まった。 また、教員の取組評価では生徒と向き合う時間の不足が読み取れる。 <改善案> 職場体験のほかに、地域の特色を感じられる工夫を行う。 勤務時間中に生徒に向き合う時間の確保のため、業務の適正化を図る。	A	9	生徒とかかわりを持つ時間を持ちたいという先生方の思いが、実現しにくい現状に悩まれていることを心苦しく思います。限られている勤務時間は生徒との関わりを最優先させていただきます。 改善策で「地域の特色を感じられる工夫」とありましたが、生徒は田園調布を故郷として語ることができる何にも代えがたいものを持っています。田園調布の町の歴史や生い立ちを学習してはどうでしょうか。「プラタモリ」で田園調布を紹介してくれ興味を持ってみたいです。 事務効率化が生徒のためにつながってくれればと思います。先生はみなすばらしいと思います。教職員の働き方改革のなかにあっても、教育の質を維持していかなければならないという課題を抱えるなか、バランスよく取組を行われていると感じています。生徒はもちろんですが、先生方にも「学校は楽しい」と感じていただきたいと思います。改善案に賛成です。まなびポケット」はついかなくなるアイデアを考えると良いと思います。取組内容にある、ICTとはけてはスキルの上を目指すものではなく、情報発信で何を指すのか、何を成果とするのかという事だと思っています。また、ICTは取組みを間違えると、先生方には今以上のご負担をかける事になります。これは、③教職員の業務適正化～という項目が極めて低い評価にある事に明確に現れていると思います。情報技術の進歩は驚くべきものがあります。大切なのはそれに惑わされる事なく、目指すべき目標を具体的にとらえ、尚且つ社会の変化に柔軟に取り組む事だと思っています。
		②教職員がそれぞれの専門性を生かしたり、地域の特色を生かしたりして教育活動を行っている。	3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4	②「教職員がそれぞれの専門性や地域の特色を生かした教育活動に取り組んでいた。」肯定的意見 92.5%	3: 80%以上			B	0	
		③教職員の業務適正化等に取り組み、児童・生徒に教員が向き合う時間を確保する等、ウェルビーイングを高める取組を行っている。	4:「おおむね高まっている」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむね高まっている」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむね高まっている」と回答した。 1:「おおむね高まっている」と回答した教員が60%未満であった。	2	③「教職員の業務適正化等に取り組み、児童・生徒に教員が向き合う時間を確保する等、ウェルビーイングを高める教育に取り組んでいた。」肯定的意見 89.3%	2: 70%以上			C	1	
		④教職員のデジタル技術の活用力を高めるためにICTサポーターによる校内ICT講習会を年3回以上実施し、教員の「まなびポケット」月間10日以上のログイン実績を60%以上へ上昇させる。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3	平均90.4%	1: 70%未満			D	0	
た 自 個 め 分 別 の 目 学 し 標 び く 5 を い 支 援 い き と す 生 き る	困難のある児童・生徒一人ひとりの状況にあわせて教育環境を整えるとともに、相談機能の充実を図ること、すべての児童・生徒が自分らしいいきいきと生きるための学びを支援します。	①インクルーシブ教育システムの構築に向けて、教員の資質・能力の向上や校内における支援体制の充実、特別支援教室巡回指導教員との連携等を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3	保護者アンケート ①「インクルーシブ教育システムの構築に向けて、教員の資質・能力の向上や校内における支援体制の充実、特別支援教室巡回指導教員との連携等に取り組んでいた。」肯定的意見 86.3%	4: 90%以上	3	合理的配置によるタブレットの使用や、学習支援員による授業の補助などを日常的に行っている。また、別室も整備し、自習やオンライン学習が行っている。実技も行っており、教材も保管することもできる。 生徒アンケートでは複数の教員でいじめの対応を当たっている印象があまりないようである。 <改善案> インクルーシブ教育は現在、教室、別室で順調に入行えているので、引き続き今年度の体制を維持してい。いじめの対応においては、組織的に対応していることをわかりやすくするために、生徒の話を聞き取る際には複数で対応する。	A	8	不登校の生徒が1割近いことを知りました。生徒はもちろん、保護者も先生方も辛い状況と推察いたします。不登校生は自己肯定感という観点からも厳しいと思います。別の形で学びを得る中で不登校から脱して高校や大学に行く道もあるようですので、寄り添って助まて下さい。発達障害は子どもの約20%という数値を見たことがあります。発達障害の生徒が不登校になるケースも多いようですし、虐待のリスクもありますので、注視して下さるようお願いいたします。不登校生が少しでも減ることを願っています。別室の設置やスクールカウンセラー、ソーシャルワーカーとの連携など生徒の学び方の多様化に柔軟に対応してくださっていると思います。いじめの対応にも学年全体で取り組んでくださっていますので生徒・保護者にも知っていただきたいと思っています。育つ環境が違えば生徒一人ひとりの華面を見ながらの取組が大変ですが、教室に入ることのできない生徒がある程度いることが必要になります。教職員の方のみならずスクールカウンセラーの方等と連携した組織対応がなされていることが理解されることは必要な取組だと思います。しっかりと支援体制が構築されていると理解され、生徒の不安等が解消されるよう引き続きよろしく願いいたします。生徒の表情、様子、変化について、学校全体で見え守って欲しいと思います。インクルーシブ教育において、通常（一般的な）生徒の不要な負担が出ないケアは必要だろうと思います。インクルーシブ教育といえは「障がいはい個性である」という言葉が直ぐに浮かびますが、実際に障がい者の方に直接接している方の話を伺うと、実際の現場はそんな生易しいものではありません。中学生ともなれば、そんな厳しい現場の声に接する機会があってもいいのではないのでしょうか。
		②学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見、早期対応等のための組織的な対応を実施している。	4:「組織的な対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満の教員が回答した。 2:60%以上80%未満の教員が回答した。 1:「組織的な対応ができた」と回答した教員が60%未満であった。	4	②「学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見、早期対応等のための組織的な対応を実施していた。」肯定的意見 83.6%	3: 80%以上			B	1	
		③スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとの連携等、児童・生徒・保護者が相談しやすい環境を整備し、一人ひとりの能力や可能性を最大限に伸ばすことを意図した指導や支援を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4	③「スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとの連携等、児童・生徒・保護者が相談しやすい環境を整備し、一人ひとりの能力や可能性を最大限に伸ばすことを意図した指導や支援を行っていた。」肯定的意見 94.0%	2: 70%以上			C	1	
		④不登校生徒の学び方の多様化への対応及び教室復帰に向けて、教育相談部と不登校対応巡回教員とが連携しながら、12月までに校内「別室」を設置するとともに、管理体制を整える。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3	④不登校生徒の学び方の多様化への対応及び教室復帰に向けて、教育相談部と不登校対応巡回教員とが連携しながら、12月までに校内「別室」を設置するとともに、管理体制を整えていた。」肯定的意見 86.8%	1: 70%未満			D	0	
安 柔 個 心 軟 別 な で 目 教 創 標 育 造 6 環 境 な を 学 習 く 空 間 ま と す 安 全 ・	学校施設について、ICT環境等の教育環境の整備を推進するとともに、児童・生徒の安全・安心を向上させるための教育を推進します。	①学校や地域の伝統・特色や、安心・安全な学校生活づくりを踏まえて、学習環境を整備している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4	保護者アンケート ①「学校や地域の伝統・特色や、安心・安全な学校生活づくりを踏まえて、学習環境を整備していた。」肯定的意見 93.2%	4: 90%以上	4	学校施設の老朽化に伴い、外壁塗装、屋上の防水加工、エアコンの交換などを計画的に進めており、2月中旬に終了予定である。電子黒板は8月に新型に取り換えられた。 避難訓練は月に一度、条件を変えながら、取り組んでいる。 <改善案> 学校では避難訓練を始め、安全・安心な学校生活を維持するために環境を整えていく。	A	7	災害がいつ発生するかわからない時代ですし、数年前には多摩川が氾濫して5丁目は大変な被害も出ています。備えあれば憂いなし、継続的に訓練をお願いします。老朽化については早急に対応が必要に感じます。学校家庭とも環境はすばらしい。学びの場が整うことは学習意欲の向上、安心安全な学校生活に直結しますので、地域住民としてうれしく思います。南海トラフ、首都圏直下型地震などの大災害も懸念されていますので、十分な訓練・環境の整備の改善案は保護者としても安心です。校舎や施設の老朽化は気にしています。震災への備えについて、避難訓練を定期的に条件を変えて実施されている取組は素晴らしいと思います。防災意識の醸成のみならず、いざというときに自らの命を守る行動が取れるように引き続きよろしく願いいたします。整った環境にあぐらをかくず、この目標・目標を継続できればと思います。老朽化対策も期待しておきます。安全・安心な教育環境という観点に立てば、学校の施設内に留まらず、通学路を含む周辺環境においても同様の関心を持って頂くのが大切ではないでしょうか。また、田園調布中学校は地域の防災拠点となっており、その観点から、継続的な防災知識の継承に地域と協力して取り組んで頂ければと思います。
		②避難訓練や安全指導日などを通して、危険や災害に対する教育を関係機関と連携しながら進めている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3	②「避難訓練や安全指導日などを通して、危険や災害に対する教育を関係機関と連携しながら進めていた。」肯定的意見 93.1%	3: 80%以上			B	2	
		③学校施設の老朽化に伴い、外壁塗装、屋上の防水加工、エアコンの室外機交換、消火栓受水槽工事等を計画的に進める。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4	③「学校施設の老朽化に伴い、外壁塗装、屋上の防水加工、エアコンの室外機交換、消火栓受水槽工事等を計画的に進めていた。」肯定的意見 97.3%	2: 70%以上			C	1	
					平均 94.5%				D	0	
学 地 学 個 校 域 校 別 を コ ・ 目 つ ミ 家 標 く ユ 庭 7 リ ニ ・ ま テ 地 の 核 連 と 携 して 協 働 に よ る	地域コミュニティの核としての学校づくりや地域の特色を生かした学校づくりを進めるとともに、学校・家庭・地域が連携・協働して、地域社会全体で子どもたちを育成します。	①「地域コミュニティの核としての学校づくり」を目指して地域と学校が連携・協働した様々な活動を実施している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3	①「地域コミュニティの核としての学校づくり」を目指して地域と学校が連携・協働した様々な活動を実施していた。」肯定的意見 87.3%	4: 90%以上	3	田園調布出張所主催の防災活動拠点訓練を地域の方と生徒のボランティアで行った。 学校だより、学校ホームページ、学年だより、保健だより、給食だよりなどで情報を発信したり、PTAの各委員会の協力による協力をいただいている。 生徒アンケートでは学期に1回ボランティアやイベントなど、実際に地域との関わりを持っている生徒が8割近くを占めている。 <改善策> 生徒は地域のボランティア、イベントにすでに参加しているので、学校で主催する行事の内容については、学校での学習の発表を中心にしたものが望ましい。授業公開、部活動紹介、図書室などの施設公開などが考えられる。	A	7	生徒が自分のボランティア活動、スポーツ・学習の成果を発表する機会を設けてはどうか。自己肯定感を高めることにもつながり、プレゼンテーション力を高めることにもなると思います。学校が地域の核となりえるかだと思います。成果評価は3ですが4に近いと思います。コロナ禍においてなかなか実施することができなかった生徒の地域活動を復活していただきありがとうございます。今後とも地域活動を通してボランティア精神や地域への愛着を醸成していただきますますよろしく願いいたします。地域と連携して防災訓練に取り組むことは素晴らしいと思います。ホームページや学校だよりはともに見やすく内容も素晴らしいと思います。生徒の安心感をベースに、さらに満足度の高まる努力がもてできると思います。地域の力を中学校に集約できるベクトルの何かを考えると良いと思います。項目として、「～地域コミュニティの核として」とありますが、私は中学校は家庭と地域を繋ぐ「触媒」として期待しています。シニア世代が中心とならざるを得ない地域組織と、地域活動に関わる余裕がない現役世代のギャップを埋める存在として、中学生は貴重なつ最善な存在です。そして、中学生の時の経験が40年50年先の地域社会に還元される。そんなサステイナブルな社会こそが理想です。それには「中学校」「地域社会」がそれぞれの魅力を発信し共有する事が大切です。これまでも、両者は「グリーンフスタ」や「防災訓練」昨年「DenDenフェスタ」といった単発のイベントで交流を図ってきました。しかしお互いがその魅力をより深く共有するには単発の事業ではなく年間を通して連続性のある関係を構築する必要があるのではないのでしょうか。
		②登下校の見守り活動等の、児童・生徒の健全育成や安全指導に係る取組を地域の協力により実施している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3	②「登下校の見守り活動等の、児童・生徒の健全育成や安全指導に係る取組を地域の協力により実施していた。」肯定的意見 79.6%	3: 80%以上			B	2	
		③家庭教育に関する情報の発信やPTAなどと連携した講演会・学習会、またはその双方を実施している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3	③「家庭教育に関する情報の発信やPTAなどと連携した講演会・学習会、またはその双方を実施していた。」肯定的意見 83.3%	2: 70%以上			C	1	
		④ボランティア活動 地域防災訓練、ガーデンパーティー、DenDenフェスタ等への積極的な参加を促し、生徒アンケート「地域力を生かした特色ある教育活動を実践する」の回答で「学期に1回以上行った」の回答を60%以上にする。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3	④「ボランティア活動、地域防災訓練、ガーデンパーティー、DenDenフェスタ等への積極的な参加を生徒に促していた。」肯定的意見 87.8%	1: 70%未満			D	0	

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。
○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。
○学校関係者評価の「評価」は、A:自己評価は適切である B:自己評価はおおむね適切である C:自己評価は適切ではない D:評価は不可能である の4点について、評価した人数を記載す